

## 令和6年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	9	氏名	稲葉晃司 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1				富士医療圏の630問題に富士宮市はどう立ち向かうのか～地域医療を守るために2024～	<p>令和5年9月定例会で630問題について取り上げ、その後1年が経過した。須藤市長は「630問題は重要な課題」と答弁されていたことを覚えている。そこで以下について伺う。</p> <p>(1) この1年間で630問題の解決に向けて富士宮市が取り組んできたことは何か、以下伺う。</p> <p>① 同じ医療圏域である富士市との連携のための話し合いは行われてきたのか。</p> <p>② 富士市立中央病院との病院間の連携と話し合いはどのように行われているのか。</p> <p>③ 630問題に関する富士宮市医師会との協力、連携などについて、話し合いは進んでいるのか。</p> <p>④ 富士市立中央病院では令和6年4月より救急専門医を配置することとなった。週一回の勤務ではあるものの、その効果は絶大で医療圏域を同じくする富士宮市民にとっても朗報である。富士宮市立病院に救急専門医を招聘することを考える際に課題として挙げられることは何か。</p> <p>(2) 富士医療圏域の救急搬送について伺う。</p> <p>① 令和5年度と令和6年度の上半期の救急搬送件数の比較、630案件の発生件数の比較をして、富士宮市が取り組んできたことで何らかの効果は表れているのか。</p> <p>② 富士宮市から市外へ搬送されるケースでは、どのような傾向があるのか。静岡市内の病院が富士医療圏域の病院に、救急搬送受入れ困難事案の受入れ協力を行っているというが、富士医療圏域内で完結する割合を伺う。</p> <p>(3) 富士医療圏域の630問題を改善するための市民への周知について。</p> <p>① 市民に、私たちは630問題を抱える医療圏に住んでいるということを理解し認識して、救急車の適切な利用について考えてもらうことや救急かけはしの登録が救命率を上げ、自らの命を守ることにつながるということを理解してもらうことで、効率よく630問題を改善するための政策の展開ができると考えるが、市当局の見解について伺う。</p> <p>② 令和5年9月定例会後の救急かけはしの登録への取組と登録者数の推移はどうなっているか。また、搬送された患者と登録者の情報がつながった割合は令和4年度の2.7%に比べて、令和5年度、令和6年度の上半期の傾向はどうか。</p> <p>③ 令和5年9月定例会において、電子申請での登録の検討について保健福祉部長が答弁されていたが、その後どのようなになっているのか伺う。</p>	市長 副市長 教育長 病院長 関係部長

令和6年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	9	氏名	稲 葉 晃 司 議員	2 / 2	
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者	
2	富士宮市の災害時における水の供給は大丈夫か		<p>これについては避難所の近くに水源がない自治会の区長から「避難所に水源がないので災害時に不安であることから、区で井戸を掘ろうと考えているが、県も市も補助的なものがないので市に要望しようと思う。」との相談があった。ちなみに井戸を掘る見積金額を伺ったところ、600万円とのことだったので、これはただごとではないということで、今回の質問に至った。そこで以下伺う。</p> <p>(1) 災害時における市内の避難所への水の供給はどのように行われるのか。</p> <p>(2) そもそも自治会で井戸を掘らなければならないほど、水の確保が難しい自治会が存在するのか。また、このような要望に市は応えることができるのか。</p> <p>(3) 市内の「災害時協力井戸」の登録件数はいかがか。</p> <p>(4) 各家庭のボイラーやエコキュート等に貯められている水を活用することを防災訓練等で行うことなどは考えているのか。</p>				市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長